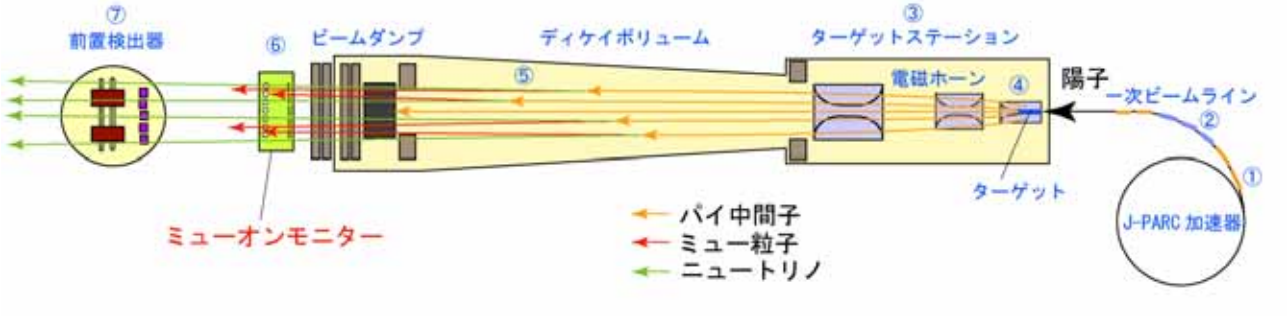
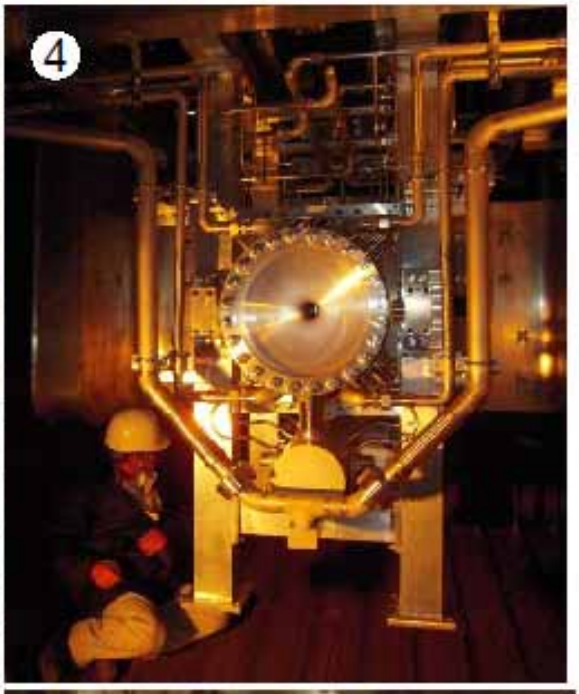
補足資料

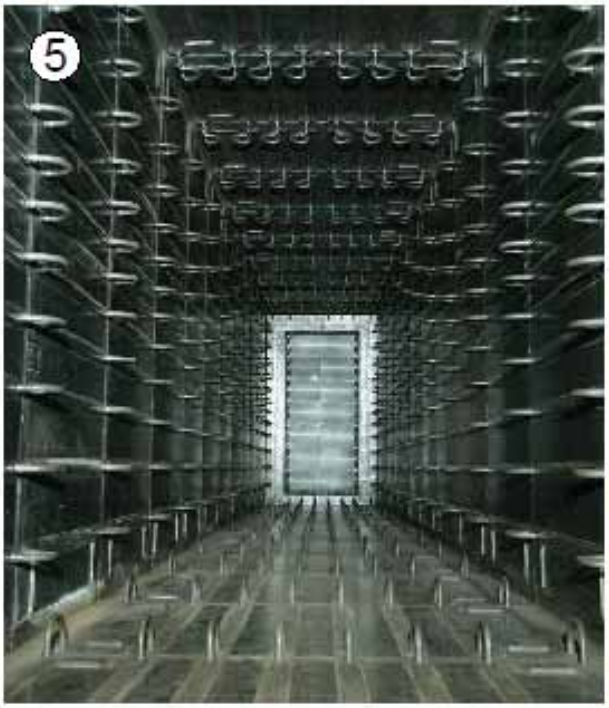
資料1) J-PARC 全景 (航空写真) と T2K 実験の概要

J-PARC では、陽子をリニアックで加速後、3GeV シンクロトロンを経てメインリングに送り込む。陽子をキッカーとよばれる電磁石により内向きに蹴りだし神岡の方向に向けた後、ターゲットに衝突させニュートリノビームに変換、スーパーカミオカンデに向けて発射する。ニュートリノビームはJ-PARC内の前置検出器を用いても観測されているので、スーパーカミオカンデの観測結果と比較することで、ニュートリノが飛行中に別の種類に変わる「ニュートリノ振動」の研究が可能となる。

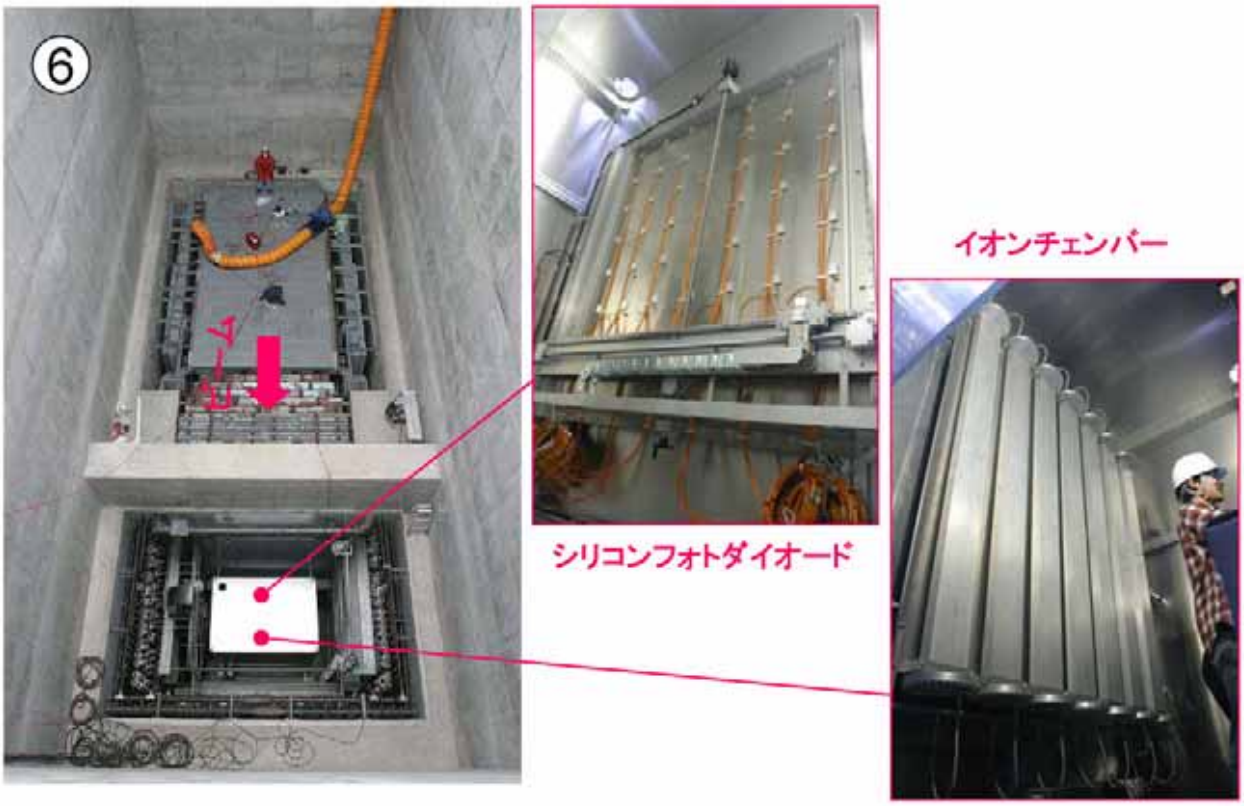
資料2） J-PARC ニュートリノ実験施設(高エネ機構担当)

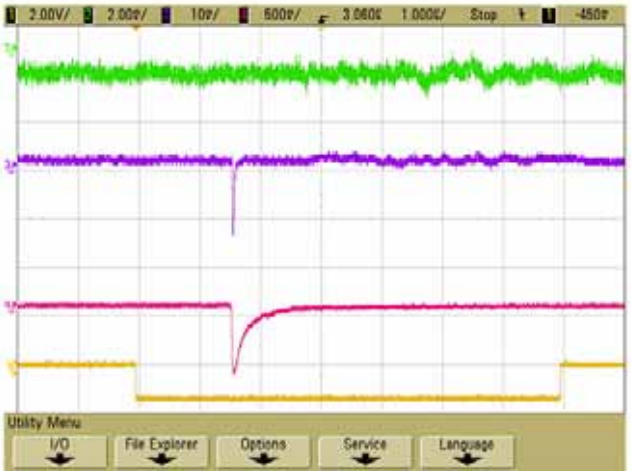






資料3） ミューオンモニターの観測結果





※ ミューオンモニターにより観測されたミュー粒子の信号